

タオパネ！シエラレオネ通信

「タオパネ！」とは、現地ティムニ語で「Join Hands!」という意味です。

第1号（2008年5-7月）



改修工事中の Mange Bissan 診療所にて



散策途中で出会った風景

皆さん、こんにちは。

ギニアとの国境に接したシエラレオネの北部のカンビア県に赴任して、早くも2ヶ月が過ぎました。まだ2ヶ月という短い期間ですが、多くの学び、発見、そして私がかつてしたことがない多くの体験を、ここシエラレオネで経験しています。

先日、ユニセフが発表しました「アフリカ子供白書」でも、5歳未満児の生存率が最も低いのはシエラレオネで、1000人当たり270人が死亡と発表されました。

しかし、シエラレオネは、日本ではまだまだ知られていない国ですので、少しでもそれらの経験を共有させて頂ければと思います。パソコンが苦手な私ですが、これから「タオパネ！シエラレオネ通信」というかたちで、2-3ヶ月に1回は現地からの情報をお送りしたいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。

私が住むカンビア・タウンの様子

1991年から約10年間続いた内戦以前は、電気・水道・舗装道路が存在したというカンビア県ですが、内戦で破壊されて、現在は県全体に電気も水道も舗装道路も全くない状態です。私が住むJICAゲストハウスも、電気は自家発電で限られた時間だけ、水は井戸からポンプでくみ上げて供給されています。確かに、制限のある生活環境ですが、慣れてくるとそれほど不便さは感じなくなってきました。夜11時に電気が消えると消灯

時間。カエルと虫の大合唱が子守唄です。朝 6 時には電気がついて起床時間。ニワトリの声で目が覚めます。

配属先の紹介

今回私が派遣されたのは、「地域保健強化プロジェクト」。配属先は、県保健局 (District Health Management Team) で、県病院と同じ敷地内にあります。同僚は 19 名。事務所の隣がクリニック。赤ちゃんの定期健康診断や予防注射、妊産婦検診と毎日にぎやかです。



県保健局の同僚たち



事務所入口前で赤ちゃんの定期健康診断

県病院もやはり水は井戸水、電気は自家発電。自家発電機が故障すると、カンビア県には修理できる技術者がいない為、フリータウンから呼ばないといけません。電気供給が途絶えると、仕事も進まず本当に不便です。おかげで、自家発電機にも少しずつ詳しくなってきました。そして、今はようやくもう1台自家発電機も確保でき、1日5時間の電気供給で落ち着いてきました。



県病院前の風景



県病院敷地内、事務所の入る建物の一角

活動の一つ、村の診療所改修工事に向けて開始

カンビア県は7つの Chiefdom(首長区)に分かれ、現在県全体で56軒の PHU (Peripheral Health Unit)と呼ばれる村の診療所があります。

同僚たちとも検討した結果、2軒(Mange Bissan PHUと Kamagbewu PHU)を今年度の改修工事対象診療所に選びました。特に Mange Bissan PHU は、村人たちで屋根半分まで建設されており、本格的な雨季が始まる前に、早急に屋根だけでも完成させる必要があるということで、7月に入ってから何度も同僚とコミュニティに足を運び、コミュニティの人たちと話し合いを行いました。この活動は、あくまでもコミュニティの協力を前提にしていますので、話し合いの目的は、コミュニティの人たちから最大限の参加・協力を得ることです。今回は Mange Bissan PHU の進み具合を写真と共に紹介させていただきます。

<Mange Bissan PHU>

カンビアの町から車で片道約1時間20分。診療所も看護師さんもいなかった村に2007年8月に看護師さんが派遣され、コミュニティの人たちが診療所を自分たちで作ろうと立ち上がった村。村へ行く道中にある4つの橋は、建設途中のままで放置されており、普段でもひどい道が雨が降ると本当に大変で、村に到着するのに一苦労です・・・。



Mange Bissan 診療所へ行く道中



道中4つの橋が建設中の為、雨で通行がかなり困難



Mange Bissan の村人たちと話し合い。
何がコミュニティで提供できるのか、彼らからの積極的な協力・参加がポイント。



現在は村人が提供した家の一角で診療中



すでに村人たちでここまで建設されていた Mänge Bissan 診療所。しかし、お金がなく屋根半分で滞る



まずは、本格的な雨季が来る前に、屋根の完成に向けて始動。まずは測量。



屋根設置に向けて必要な資材をカンビアの町から船着場まで運ぶ。



雨季で道路状態が悪い為、コミュニティから船を出してもらい。船着場に到着。



コミュニティの船で屋根の資材を運ぶ。



コミュニティの人たちで屋根の設置作業。



重要なことは村人の長老たちと話し合い。



2008年7月19日、屋根が完成。

現在は、雨季明けの9月から本格的に作業を開始できるように、更にコミュニティと話し合いを行い内容を詰めているところです。

今月の新発見・・・炭作り

ここでは、毎回新しく発見したことをご紹介させていただきます。今回は、ハイキング途中で遭遇した炭作りの様子です。



炭作り第1段階

小枝を集め、小山のように積み上げます。
小枝を積み上げるのは、1日作業。



炭作り第2段階

小枝の山を草で覆い、その後泥で塗り固めます。



炭作り第3段階

3日間火をつけて中で燻らせます。
そして1週間クーリング。



販売へ

この小山から取れる炭は、約100袋。
このような感じで売られています。1袋田舎で
SLL6,000(約200円)、フリータウンでは約2倍
の値段で売られています。

最後に

7月・8月は雨季。すでに何度もバケツをひっくり返したようなすごい雨が降り始めています。そんな中、毎週日曜日には数時間、周辺を散策・探検しています。炭作りも偶然出遭った光景でした。そして米が主食のシエラレオネ、今は田植えの時期。ここに田園風景と、散策中に出遭ったおもしろい形のシエラレオネのアリ塚をご紹介します。



田園風景



アリ塚

現在、プロジェクトのロゴ・ニックネーム・スローガンを、ラジオ放送と村の診療所のスタッフを通して、カンビア県に住む地元の方たちから広く募集しています。7月31日締め切りですので、次号では選ばれましたロゴ・ニックネーム・スローガンを皆さんにお伝えできればと思います。